

南区温泉比へ

区内の温泉でほっこり

はるか昔から日本人に親しまれてきた温泉。ここ南区には、全国的にも知名度の高い定山溪温泉をはじめ、小金湯温泉や豊平峡温泉があります。同じ南区にある温泉でもそれぞれに異なる趣があり、違いを楽しむことができます。今月は、3つの温泉の泉質や効能などを紹介していきます。



定山溪温泉

定山溪温泉は、札幌の中心部から車で1時間弱の距離に位置しており、札幌の奥座敷として、多くの市民から愛され、道内外でもよく知られている温泉地です。

定山溪には、豊平川沿岸や川底に56カ所ある源泉から、約60〜80度の温泉が湧き出ており、その量は毎分8600リットルにもなります。

泉質は、ナトリウム塩化物泉（旧泉質名・食塩泉）に分類され、無色透明ですが、その名が示すとおり、なめると海水のようなしょっぱい味がします。

ナトリウム塩化物泉は、別名「熱の湯」ともいわれる泉質で、毛穴を塩分がふさぎ、汗の蒸発を防ぐため保温効果が高く、冷え性や神経痛、関節痛のほか五十肩などに効果があるといわれています。

小金湯温泉

小金湯温泉は、定山溪温泉から市街地方向に5キロほど離れた場所にある温泉で、古くから湯治場として知られています。こちらの泉質は、弱アルカリ性の単純硫酸泉（旧泉質名・硫酸泉）といわれるお湯で、いわゆる温泉らしいにおいの硫酸臭がする温泉です。

色は無色透明で、泉温は約29度。源泉の温度が低いため、加熱して適温になるように調整をしています。

単純硫酸泉は、殺菌力のある硫酸を含んでいるため、皮膚病に効くとされており、ほかにも慢性婦人病などに効果があるといわれています。



小金湯温泉からは、豊平川の溪流や八剣山の眺めなどが楽しめます。

クーポン